

—— 特集 ——

災害と向き合うための弁護士実務

座談会

弁護士災害支援の変遷と未来

～これからの在り方と弁護士業務の結びつき～

出席者

弁護士

永野 海 (司会) Kai Nagano

弁護士

津久井進 Susumu Tsukui

弁護士

鹿瀬島正剛 Seigo Kasejima

I はじめに

永野 それでは、これより「弁護士災害支援の変遷と未来」と題する座談会を開催いたします。

今回のテーマについては、弁護士の災害支援のこれまでの変遷から、災害支援を継続するためにはどのような方策があり、それらが弁護士の業務とどのように結びつくのかを議論していく予定です。しかしながら、弁護士にとってはかなり難しく、また今まであまり考えてこなかったテーマではないかと思います。

まずは自己紹介からということで、津久井さんからお願いします。

津久井 津久井進です。兵庫県弁護士会に所属する47期です。

1995年の4月登録ですので、阪神・淡路大震災が起きた直後から弁護士をしております。今年で30年目になります。本日はよろしく願いいたします。



津久井 進

永野 それでは、鹿瀬島さんお願いします。

鹿瀬島 鹿瀬島正剛です。熊本県弁護士会に所属する53期です。私は2000年に弁護士登録いたしました。

そもそも災害に関わるようになったのは2016年の熊本地震のときからです。それまでは全く災害のことについては何も知らない、むしろ、他人ごとのような感じで弁護士業務をしておりました。それ以降、津久井さん、永野さんたちと一緒に支援活動をしていく中で、2020年に熊本県弁護士会会長の時に、球磨川で大きな豪雨災害が起きまして、くしくも地震と水害の両方を経験いたしました。本日は、これらの経験も踏まえてお話できればと思います。よろしくお願いします。



鹿瀬島 正剛

永野 最後に、本日進行を務めます永野海です。静岡県弁護士会所属の旧60期です。

本業の傍ら、ライフワークとして防災や災害